



®環境省

エコアクション21

認証番号 0006252

環境活動のまとめ

OSAKA PALCOOP ECO REPORT 2018

この報告書は2017年度の方針にそった
主な環境活動についてまとめたものです



生活協同組合 おおさかパルコプ

●●●「環境活動のまとめ」発行にあたって

2015年9月の国連総会で、「我々の世界を変革する：持続可能な開発のための2030アジェンダ」[※]が国連加盟国193カ国の全会一致で採択されました。そこには世界を変えるための17の目標「SDGs（エスディージーズ）」が盛り込まれています。それは、貧困、飢餓、健康と福祉、教育や世界平和など持続可能性に関するあらゆる分野に及び、気候変動、クリーンエネルギーなどの環境問題へのとりくみも含まれ、2016年から全世界で実施されています。

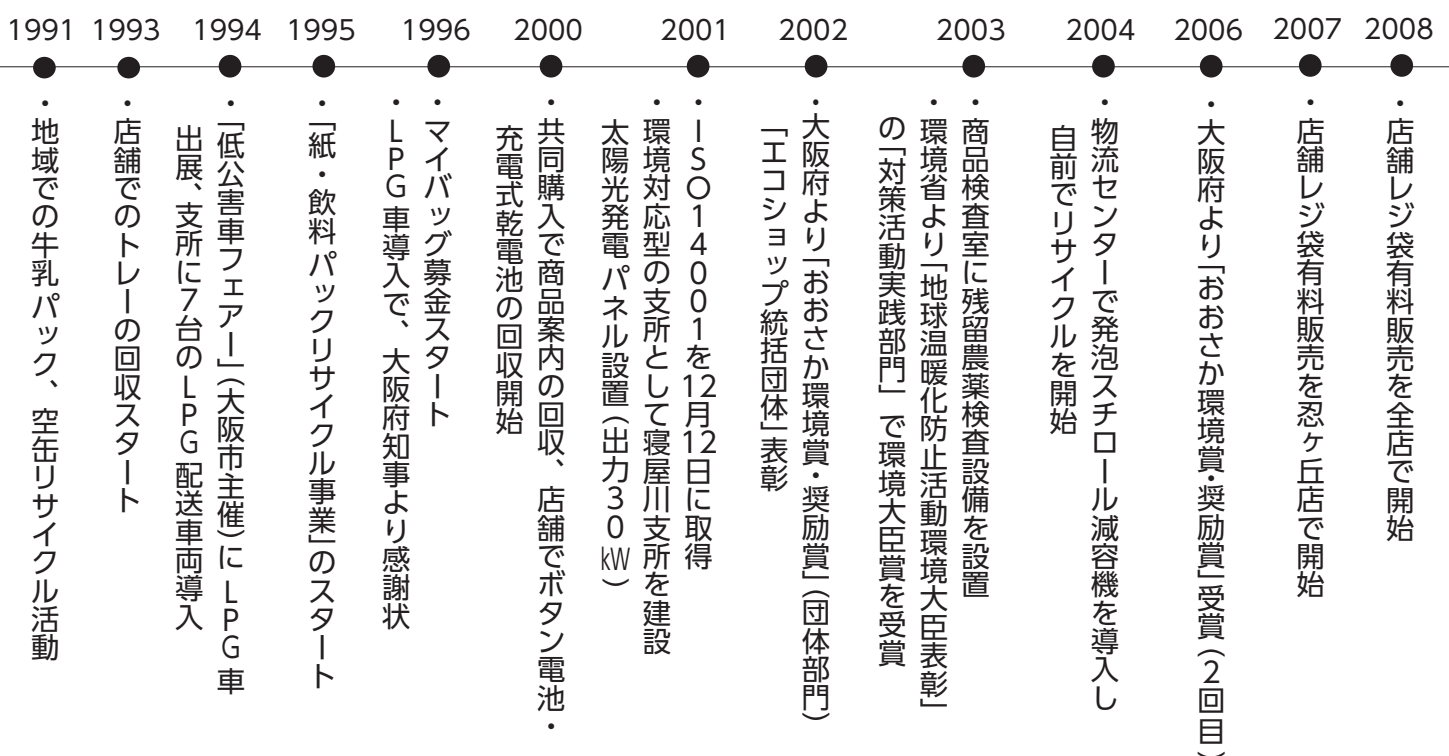
「持続可能な開発のための2030アジェンダ」の前文には、地球について「地球が現在及び将来の世代の需要を支えることができるように、持続可能な消費及び生産、天然資源の持続可能な管理並びに気候変動に関する緊急の行動をとることを含めて、地球を破壊から守ることを決意する」とされています。

パルコは協同組合として、「子どもたち・未来のために、美しい地球のために」をスローガンに、環境問題を根源的な課題としてとりくんできました。私たちが進めてきた活動は、環境問題にとどまらず、この「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に応えるものです。今後も、わたしたちにできることを一歩ずつ確実にすすめていこうと考えています。

※アジェンダ：とりくむべき検討課題や、行動計画を指します



これまでの主なあゆみ



「子どもたち・未来のために、美しい地球のために」

子どもたちに自然環境のすばらしさを伝えていくことは、大人としての課題です。未来を生きる子どもたちに美しい地球を渡せるよう、生協として地球温暖化防止の社会的責任を積極的に果たし、事業と活動をすすめていきましょう。

2018年5月

環境マネジメント推進委員会

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための17の目標



2009 2010 2011 2012 2013 2014 2015 2016 2017

- 2009
 - ・大阪府より「おおさか環境賞・奨励賞」受賞(3回目)
 - ・大阪市におけるレジ袋削減に関する協定調印
 - ・港支所に太陽光発電パネル設置(出力30kW)
- 2010
 - ・エコアクション21認証登録(11月29日)
- 2011
 - ・商品検査室に放射能検査機器を設置
- 2012
 - ・「大阪市におけるレジ袋削減に関する協定」店頭イベントを開催
 - ・ライトダウンキャンペーンに参加
 - ・エコアクション21更新審査「適合」

ライトダウン
- 2013
 - ・NPO法人「リアルにブルーアースおおさか」によりながお店に太陽光発電パネル設置(出力20kW)
 - ・北枚方支所に太陽光発電パネル設置(出力50kW)
 - ・忍ヶ丘店食品リサイクル(肥料化)をスタート
- 2014
 - ・店舗で透明トレイの回収スタート
 - ・エコアクション21更新審査「適合」
 - ・寝屋川支所の太陽光発電パネル更新(出力30kWから50kWへ)
- 2015
 - ・おおさか協同物流センターに太陽光発電パネル設置(出力655kW)
 - ・大阪市内3店舗で食品リサイクル(飼料化)をスタート
- 2016
 - ・なにわエコ会議「二酸化炭素削減コンペ」ガス使用量削減活動でチャレンジ賞受賞
 - ・エコアクション21更新審査「適合」
- 2017
 - ・食品リサイクル(飼料化)7店舗に拡大

ゲルマニウム半導体検出器



環境マネジメントシステムを活用して 事業をすすめています

事業活動にともなう環境負荷を最小限にとどめることに継続的にとりくむために、環境省が定めた環境マネジメントシステム「エコアクション21」を活用しています。



毎年、資格を持った外部審査人の審査を受けます。2017年度は中間審査年で、11月に3日間、各事業所の審査を受けました。環境へのとりくみが評価され「**適合**」の結果でした。

環境方針

基本理念

おおさかパルコープは、持続可能な循環型社会の実現を目指し、環境問題を重要な課題と位置付け、組合員とともに環境保全活動に積極的に取り組みます。

基本方針

おおさかパルコープは、組合員を対象とした食料品など生活関連の商品供給事業及び共済、福祉事業や旅行、チケット、暮らし関連などのサービス事業を行っています。こうした事業活動から発生する環境に大きな影響を及ぼす項目について、技術的かつ経済的に可能な範囲で環境目標、環境活動計画を定めて取り組み、環境負荷の軽減と汚染の予防、生物多様性の保全への配慮、環境マネジメントシステムの継続的な改善を行います。

1. 環境に配慮した商品やサービスの取扱いと普及をすすめます。
2. 地球温暖化防止のために、CO₂ 排出量削減に取り組みます。
 - ・パルコープで使われる機器について、積極的に省エネルギー機器導入に取り組みます。
 - ・電気、ガスの使用量削減に取り組みます。
 - ・配送効率の向上や運転技術の向上で車両燃料の削減に取り組みます。
3. 廃棄物の削減、リサイクルに取り組みます。
 - ・紙を効率的に使用し、使用量削減とリサイクルに取り組みます。
 - ・店舗では食品廃棄ロス基準を守り廃棄物の再生利用等に取り組みます。
 - ・組合員とともに、容器包装、商品案内などの回収リサイクルや、買い物袋持参に取り組みます。
4. 資源の有効活用、節水に取り組むとともに、グリーン購入に努めます。
5. 検査室で商品検査に使用する化学物質の適正管理推進のために、定期的に使用量確認を行います。
6. 環境関連の法令、条例及び受け入れを決めたその他の要求事項を遵守します。
7. 組合員による環境活動を積極的に支援し、持続的発展を可能とする循環型社会構築に向けた社会的活動に広範に取り組みます。
8. 以上の活動を進めるために、職員に対する環境教育と環境コミュニケーションを積極的にすすめます。

この環境方針はおおさかパルコープの内外に公開するとともに、環境活動の取り組みの状況について定期的に公表します。

2001年7月21日制定
2014年10月16日改定
生活協同組合おおさかパルコープ

理事長



環境省
エコアクション21
認証番号 0006252

2017年度 主な環境目標の実績と評価



事業所や部署ごとに、今年は 31 項目の目標を持ちました。23 項目は目標を達成したり、実施することができましたが、8 項目は目標を達成することはできませんでした。毎年目標の見直しを行いながらとりくみを継続します。

	主な環境目標	活動と評価
省エネルギー活動	電気使用量  前年対比 99.9%	南枚方支所が開設されるなど、使用量が増加する要因はありましたが、ガスの使用量以外は前年度を下回りました。特に水道使用量は、店舗の蛇口に付けた節水用の器具が効果を発揮し、設置後の使用量が店舗全体で昨年対比 94.5% になり、全体でも昨年を下回ることができました。来年も日常的な省エネ活動を続けたいと思います。
	ガス使用量  前年対比 104.4%	
	水道使用量  前年対比 96.9%	
	車両燃料使用量の抑制 エコドライブ 車両燃料や CO₂ 等の排気ガスの排出削減ができます。 制限速度を守り、急発進、急ブレーキなど「急」のつく運転はしない。駐車時はアイドリングストップなど環境に配慮した運転をする。等 安全運転  燃料使用量 前年対比 99.9% 車両台数 前年対比 111%	配送車両の台数は前年対比で 111% と増えていますが、使用量は前年を超えることはありませんでした。車両の燃費性能の向上もありますが、安全運転と合わせて、日々「エコドライブ」にとりくんでいます。
	ハート栽培農産物の取り扱い  107 品目 / 102 品目 (前年度)	ハート栽培農産物は使用農薬の削減と共に、産地の環境保全や生物多様性の保全につながるとりくみです。検査室ではお届け前の農産品の農薬検査を実施し、基準確認をしています。
	グリーン購入の推進※ ※グリーン購入：製品やサービスを購入する際に、環境を考慮して、必要性をよく考え、環境への負荷ができるだけ少ないものを選んで購入することです。 グリーン購入比率 54.7%	購入比率 54.7% と、比率で昨年対比 1.3 ポイント低下してしまいました。グリーン購入は、購入者自身の活動を環境にやさしいものにするだけでなく、供給側の企業に環境負荷の少ない製品の開発を促すことで、経済活動全体を変えていく可能性を持っています。次年度も環境目標としてとりくみます。
	環境に配慮した設備・資材の導入 南枚方支所の開設でとりくみました。 15 項目の環境対応	この数年、新規開設の支所、店舗を中心に環境に配慮した設備や資材の導入をすすめてきました。環境配慮をすすめるためにリストを作成し管理しています。

地球温暖化防止のため CO₂ 排出量削減の とりくみをすすめています

2017年度CO₂排出量は11,626トンとなりました。
前年度対比で100.1%となり、原単位では20.1ト
ンとなりました。2017年度は総量でも原単位でも
昨年を上回ってしまいました。

※原単位：CO₂排出量を供給金額で割り算して、
CO₂排出量を算出し、削減にとりくむ方式です。

毎年、設備改善と運用管理の強化で排出量削減にとりくんで
います。多くのCO₂を排出する事業者の社会的責任として、
これからも削減のとりくみを積極的にすすめていきます。

全国生協のCO₂排出総量削減目標

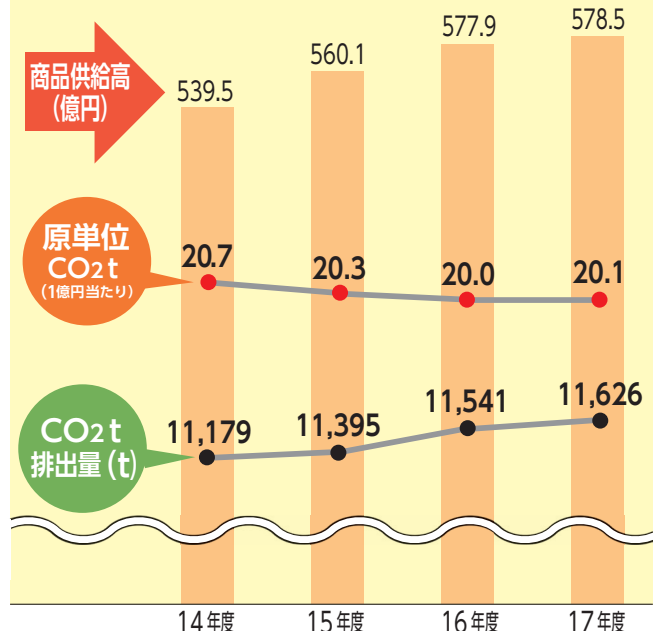
2020年に
2005年度比で **15% 削減**

日本生活協同組合連合会ではCO₂排出量の総量削減をす
すめるために、全国の生協と協力して「温室効果ガス総
量削減長期計画」をすすめています。2020年度に、生
協全体のCO₂排出量を「2005年度対比で15%削減」
を目標としています。

パルコープでもデータ提供し、総量削減のとりくみをす
すすめています。

CO₂ 排出量の抑制 経年の推移と評価

電気使用CO₂排出係数：0.423kg-CO₂/kWh
(日本生協連、全国統一CO₂排出係数)



今年度
パルコープの
CO₂ 排出総量
11,626t

●●● 全事業所で省エネにとりくんでいます

共同購入・各事業所でのとりくみ

省エネ機器の導入をすすめました

8月に枚方市出口に、南枚方支所を開設しました。

支所を配送地域に分散することで、配送効率が改善され、車
両燃料の使用量の削減など省エネにもつながります。LED 照
明の採用や節水設備の導入、倉庫内の照明を細かく消灯でき
るように、スイッチ回路の細分化を実施するなど、15 項目の
環境対応を行いました。次年度も配送センター2ヶ所と福祉
の新施設を開設する計画です。環境配慮をすすめます。

2017年8月開所
南枚方支所



今年も事業所の空調室外機に自前の遮光工事を行いました



遮光設備の設置で
電力使用量
10% 削減
効果

直射日光が長時間当たる店舗、
配送センター7ヶ所に設置し
ました。電力使用量で10%の
削減効果があると言われてい
ます。最高温度が25℃を超え
ると設置、超えなくなると撤
去しています。

店舗でのとりくみ

遮熱ネットの設置

西日が入り、店内温度が上昇することを防止するために、レジ側の窓に遮光用のネットを設置しました。

気温が上がってくる時期、特に電気使用量が多くなる夏の店内温度を下げることで、各種機器の負荷を下げることにつながります。省エネはもちろん、ショーケースなどの温度管理が徹底できることで、商品の品質管理にも効果を発揮します。

西くずは店



食品リサイクル

お店で加工時に発生する野菜くずや、消費期限、賞味期限が切れて販売できなくなった食品を、京都府長岡京市にある食品リサイクルの工場に運び込み、水分を抜くなどの加工処理をしたのち粉末状の「飼料（ブタや鶏などのエサの原料）」にリサイクルしています。保管スペースが無い2店舗（粉浜、星ヶ丘店）以外の7店舗で実施、2017年度は126トンがリサイクルされています。

販売数の管理徹底など廃棄物を出さない手立てを打ちながらも、残った食品は有効利用するとりくみです。



食品の
リサイクル
126
トン

完成した
飼料原料



店では細かく分けて
出す作業をしています。

おおさか協同物流センターでのとりくみ

(株)おおさか協同物流センター



太陽光発電設備

● 2014年3月から順次LED照明を導入、現在まで2,840ヶ所に導入、導入前と比較し年間で約22万kWhの電力使用量の削減につながっています。2015年6月には太陽光発電設備が稼働し、今年は73.5万kWh発電されています。合計するとCO₂排出量で約486トン削減しています。

● 2015年3月に農産の加工作業で発生する野菜くずを微生物で分解する生ごみ処理機を導入しています。焼却場で生ごみとして処理する場合と比べると、CO₂排出量で96%の削減につながると言われています。

太陽光発電設備について

再生可能エネルギーはCO₂の排出量を大幅に削減し、日本のエネルギー自給率を上げることにつながります。

現在、パルコでは(株)おおさか協同物流センター（655kW）を含めて785kWの太陽光発電が稼働しています。年間発電量は合計869,758 kWhになり、CO₂の排出量で443トンの削減につながっています。

年間発電量
869,758
kWh

CO₂ 排出量の
削減効果
443
トン分

(電気使用 CO₂ 排出係数：
0.509kg-CO₂/kWh)

太陽光 発電設備	北枚方支所	50kW	港支所	30kW
	寝屋川支所	50kW	(物流センター)	655kW)



生産から消費まで、環境に配慮した商品の取り扱いをすすめています

肥後農産出荷組合のとりくみ

熊本市は、古くから「水の都」とも呼ばれるように水環境に恵まれた地域です。上水道に使われる水が全て地下水で賄われ、菊陽、大津に多く稼働している半導体工場などにも無くてはならない資源です。

大津町で人参栽培をしている坂口さんは貴重な地下水資源の涵養のため阿蘇から流れる白川の農業用水を利用し休んでいる田んぼも含めて水を張って地下水源の保全にとりくんでいます。

人参の栽培においても地下水源の元になるために使用する農薬は熊本県の栽培基準の1/2以下の最小限にとどめて環境に配慮した栽培を行っています。



熊本県大津町
坂口裕樹さん

※涵養（かんよう）とは、地表の水（降水や河川水）が地下に浸透し、地下水となることを指します。

パルコープ独自の「ハート栽培農産物」は2017年107品目の農産物が認証されました

ハート栽培農産物について	パルコープ独自の任意表示	農水省ガイドラインにそった表示	有機JAS
使用農薬の総量削減と環境保全型農業をすすめています 農薬・化学肥料ともに当地比の3割以上減らした野菜果物・米に「ハート栽培」マークを表示	農薬・化学肥料を減らして努力しているマーク 3割以上減らしました 下記の認証をうけていない5割減・不使用も含みます	農水省ガイドラインにそった表示 5割以上減らしました 都道府県による認証の特別栽培農産物	有機JAS 農薬・化学肥料を使わず栽培

もずくを食べてサンゴが育つ海づくり

サンゴ再生もずく基金



今年度植樹
67本

～サンゴ再生もずく基金・

ココラボ～



産地、メーカー、生協、組合員が手をつなぎ、もずくの育つ里海を守るとりくみです。

もずくはサンゴが元気なきれいな海で育ちます。恩納村漁協・(株)井ゲタ竹内・パルコープ・よどがわ市民生協で「サンゴ再生もずく基金」にとりくみ、サンゴが育つ恩納村の海を応援しています。沖縄の海は「水温上昇によるサンゴの白化」やサンゴの大敵である「オニヒトデの大量発生」「赤土の流出」などの問題で荒れてきました。恩納村漁協は、「糸もずく」が育つ里海づくりを手がける中で、1988年からサンゴの植樹活動を始めました。成長したサンゴたちが産卵し、その卵が海流に乗って色々な場所に広がっていくことで環境がよくなることを目指しています。

「恩納村産味付糸もずく」1品につき1円がサンゴ基金になります。約2800個のご利用で、サンゴ1本が植樹されます。**今年は67本となり、2013年からの累計では419本となりました。**



サンゴ再生もずく基金

井ゲタ竹内
もずくの
製造・販売

恩納村漁協
サンゴの植樹
もずくの収穫

組合員さん
もずくを利用

パルコープ・
よどがわ生協
1品あたり1円を
「サンゴ再生基金」
として寄付

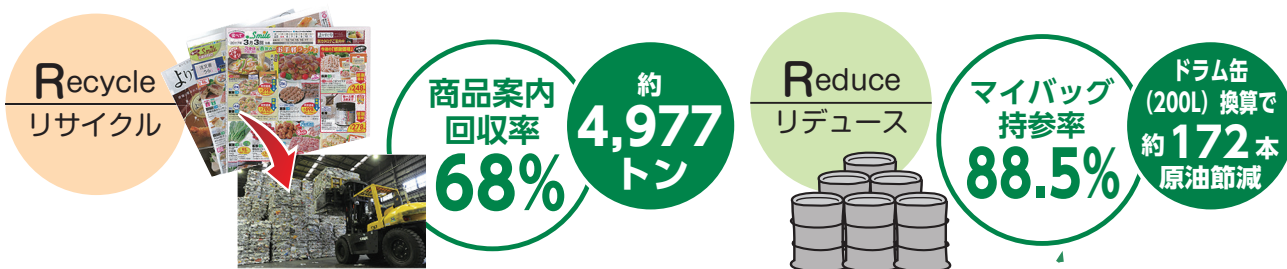
●●● 3R で資源の有効活用をすすめています

リデュース **R**educe

リユース **R**euse

リサイクル **R**ecycle

- 事業活動に伴って排出される容器包装のリサイクルにとりこんでいます。
回収、再資源化しやすいよう、洗う、開く、乾かす、つぶす、重ねるなど、それぞれの回収方法を守り、リサイクルにご協力頂いています。捨てればゴミに、分別して出せば資源です。ご協力をお願いします。
パルコープのお店では容器包装を資源として有効活用することを目的に、1990年代から発泡スチロールトレイやペットボトル、2000年代に入ってから卵パック、ビン、缶のリサイクル回収もスタートしました。
- 共同購入で使われている商品案内（カタログ）は、古紙原料としてリサイクルされています。組合員さんのご協力で、2017年度は約4,977トンの回収、再資源化につながりました。回収率は現在、約68%です。100%を目指して、配送時の回収を広めましょう！



リサイクル品17年度回収量		回収量
商品案内	回収率：68%	4,977t
共同購入	紙飲料パック	92,030kg
	卵パック	33,880kg
	仕分け袋	36,320kg
店 舗	紙飲料パック	19,850kg
	卵パック	9,440kg
	ペットボトル	22,450kg
	ビン	55,380kg
	缶	6,970kg
	食品トレイ	43,090kg
	乾電池類	1,560kg
共同購入+店舗	蛍光灯管(大阪市内)	2,104 本
	発泡スチロールダンボール	62,430kg 898t

組合員さんには、店舗でのマイバッグ持参にとりこんで頂いています。マイバッグの持参率は88.5%となりました。レジ袋は約606万枚削減されていることになりました。引き続きマイバッグ持参運動にご協力ください。

- お店では「魚のアラ」をリサイクルしています。(全店舗)
岸和田市にある小島養殖漁業生産組合で魚粉と魚油を製造。飼料などに使われています。

1年間で**126t**ほどが
リサイクルされています。



- お店(全店)で調理に使った廃油は、今年も約20,000リットル(200リットルドラム缶100本)のバイオディーゼル燃料にリサイクルされています。

フードバンク活動への商品提供

- 物流センターではフードバンク活動への商品提供を行っています。フードバンク関西へは3週間に1回のペースで、今年度は17回実施し、12,190kgの提供を行いました。
- また、昨年より準備をすすめている、「パルコープ子ども食堂フードバンク」では、エリア内30ヶ所の子ども食堂(2018年3月現在)に食材をお届けしています。



Food is Precious
FOOD BANK
KANSAI

フードバンク
活動への商品提供
12,190
kg

※フードバンクとは、包装の傷みなどで、品質に問題がないにもかかわらず市場で流通できなくなるなど、さまざまな理由で処分されてしまう食品を、必要としている人や団体に無償で提供する活動です。



1日エコライフ 身近にできることから…

組合員みなさんひとりひとりの、少しずつの気づきが大切です。

エアコンの温度管理、買物袋持参、ゴミの分別やリサイクル、車は使わず徒歩や自転車での外出。毎日の暮らしの中で環境を守るとりくみにつながることはたくさんあります。組合員さんには毎年、OCR アンケートなどを通じて、身近にできることにチャレンジして頂いています。

今回参加人数
3,000 名
(組合員+職員)
CO₂ 削減量
約**1,557kg**



1日エコチャレンジでいただいた 感想・メッセージをご紹介します

極力子どもたちがいない時はクーラーを使用せず扇風機を活用し、首に保冷剤をつけて涼んで過ごしているので、少し暑さも和らげているので、今後も続けていきたい。

普段の生活で無駄が多いことに気づきました。常に意識して生活するよう心掛けたいと思います。

土日は各部屋ではなく、なるべく一つの部屋に集まって過ごす時間を長くすることで、クーラーや扇風機を使用する台数を減らせるのでとても良い。1ヶ所に集まることで家族の会話も増える。

家を建てる時に省エネのことを考えてLEDを全てLEDにしました。エネファームで太陽光発電を導入することでエコライフにとりこんでいます。

家の中を見ていると、無駄にスイッチが入ったものがあつたので消しました。子どもが成長し、それぞれの生活になってきているので声をかけて使わないものは消すように協力してもらわないといけないと思いました。

ふんわりアクセルはいつでも簡単にできるので、これからも意識してとりくみたいと思います。

地球環境を考えてとりくみ、結果、やがては、私の生活にかえてくるのだと実感しました。

ペットボトルを凍らせて室内に置きました。
2リットル 5本

エコの気持ち、たいせつに生活していきたいです。

今まで節約のためにしていたことがエコライフにつながっていることが多くあり、節約とエコはつながっていると感じました。



●●● 地域や行政とともに

2017年6月21日、7月7日ライトダウンキャンペーン

今年も全店舗で「ライトダウンキャンペーン」、大阪市内の店舗では大阪府環境局、なにわエコ会議との「レジ袋削減協定・店頭イベント」、枚方では地球温暖化対策協議会からの要請を受け「打ち水大作戦」などにもとりくみ、地域への環境活動のアピールに努めました。

ながお店
啓発うちの
配布



ライトダウン
キャンペーン
参加者にプレゼント
しました。



12月5日
粉浜店
レジ袋削減
キャンペーン



8月2日
ながお店
打ち水大作戦

地域、行政と一体となった環境イベント

組合員活動として、「ガレージセール イン OSAKA TOWN」「環境フェスタ in 交野」「スミノエコロジー」「(寝屋川市) 環境フェア」など、地域、行政と一体となった環境イベントにとりくみました。



3月11日
環境フェスタ
in 交野



7月9日
スミノエコロジー

6月4日 身近な水環境の全国一斉調査

大阪市内では「身近な水環境一斉調査」に15地域18ヶ所44名が参加しました。

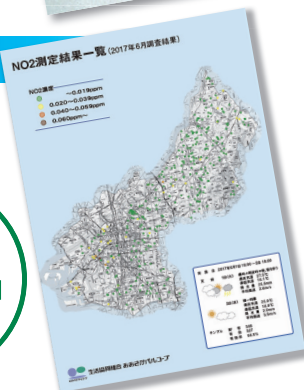
15地域
44名
参加



6月1日～2日 NO₂ 自主測定

大気汚染への関心を高めるために毎年とりくんでいるNO₂自主測定には66地域346名の参加がありました。

66地域
346名
参加



省エネチャレンジノート

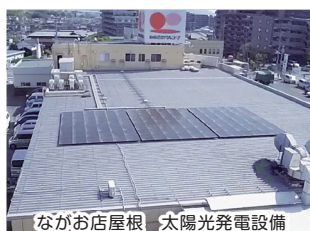
地球温暖化防止に身近なところからとりくむ省エネチャレンジノート（協力：特定非営利活動法人、地球環境市民会議＝CASA）に、のべ22名が参加しました。



省エネチャレンジノート（表紙・内面）

OSAKA PALCOOP ECO REPORT 2018

自分たちで協同発電所を作ろう!!



パルコプの組合員さんの中から「自分たちで協同発電所を作ろう」と立ち上がった NPO 法人「リアルにブルーアースおおさか」。2014 年 1 月になごお店の屋根に設置された 20kW の太陽光発電設備は 2017 年 3 月からの 1 年間で 23,810kWh の発電がされました。これは一般家庭が 1 ヶ月に消費すると言われている電力量（約 300kWh）で換算すると 6 年 7 ヶ月分に相当します。

おおさかパルコプ 概要

2018 年 3 月 20 日現在

名称 生活協同組合おおさかパルコプ
設立 1991 年 3 月 2 日
職員数 フル職員 738 人、属託職員 64 人、パート職員 1,545 人
供給高 578 億円
組合員数 42.1 万人

共同購入支所数 11 カ所
店舗数 9 店舗
組合員会館 4 カ所
組合員集会室 11 カ所

 生活協同組合 おおさかパルコプ

大阪市都島区東野田町 1-5-26
<http://www.palcoop.or.jp/>

2018 年 5 月発行